



令和5年 10月 10日

発行者 横浜市立篠原中学校

校長 濱崎 利司

10月号

“スポーツ・イベントの秋”前号からの続き

校長 濱崎 利司

9月も暑さが続き、外での活動がWBGT計に“一喜一憂”する状況でしたが、10月に入りようやく落ち着いた様子です。一方、新型コロナ感染症とインフルエンザが流行っているのも事実です。かく言う私も約一月前に初めて新型コロナ陽性となりました。噂に違わず、いや聞きしに勝る状況でした。還暦過ぎでの体に高熱が続く容体は、一切のやる気を削ぎました。皆様、くれぐれもお気をつけください。

さて、前号ではバスケットボールのワールドカップ(W杯)に触れました。日本男子代表チームは、見事来年のオリンピック・フランス大会の出場を決めました。苦しい状況もありましたがここぞで決めた比江島選手の3Pシュートは勝利に導きました。また、ラグビーW杯・フランス大会で“ブレイブブロッサムズ”は、残念ながら2大会連続前回ベスト8は達成できませんでした。アルゼンチン戦の勝利まであと一歩でした。これを書くと、この原稿がいつ書かれたのかバれてしまいます…。遅れてすみません！

イベントとして、「新横浜パフォーマンス」が今月28・29日に予定されています。地区を挙げての一大イベントのようです。本校からは吹奏楽部が28日午前・ボランティア希望の生徒は29日に出演・参加予定です。20年以上の歴史あるこのイベントに、以前北新横浜に住んでいた時に娘を連れて遊びに行った記憶があります。まさか、そのイベントのステージに校長として登壇しようとはいやはや、です。

本校のイベントでは、これも前号で紹介した「フェスタしのはら・合唱コンクール」が27日と迫ってきました。これから本番に向けて、より一層合唱練習に熱を帯びてくるでしょう。後期始業式で話しましたが、結果に捉われることなく、お互いを思い、認め合う取組を経験できるといいと思います。

総合防災訓練

9月1日「防災の日」、大規模地震を想定した防災訓練を行いました。暑い中でしたが、生徒は皆、真剣に行動してくれました。講評として、東日本の震災を語り継ぐ展示物に書かれていた減災のポイントを紹介しました。

1. 想定を信じるな 2. 最善を尽くせ 3. 率先避難者たれ
関東大震災から100年。震源地は相模湾北西部。神奈川は大きな被害を受けました。火災による被害、津波による被害のほか、山津波と呼ばれる土砂崩れによる被害も多数ありました。横浜市は起伏の多いまちですので、そういったことも念頭に置いて自分のいのちを守る行動がとれるようになってほしいと思います。

《防災訓練を終えて》

関東大震災で横浜は震度7だったということを初めて知り、横浜でも大地震が本当にいつ起きてもおかしくないと思った。「自分は大丈夫」「横浜にはこない」とは思ったらダメで、他人事で考えるのではなく「今、来るかもしれない」と日頃から心や物の備えをしていきたい。
(3年)



港北区個別支援学級合同宿泊学習会

9/8(水)から1泊2日で港北区個別支援学級合同宿泊学習会が行われました。1日目は野毛山動物園に行きました。他校と合同で作った班のメンバーと一緒に行動し、動物クイズを楽しみました。キリンの色は何色か?という問題には様々な答えがあり、それぞれの考えを尊重する子どもたちの様子を見て、成長を感じるとともに、何事も答えが1つである必要はないなあ、と考えさせられました。

午後には上郷森の家にチェックインした後、フォレストプラザでレクを行いました。小学校の時に行ったよりも綺麗で新鮮だった!と生徒たちは二段ベッドに興奮しながらじゃんけんをしていました。夕食を食べ終えた後のゆうべの集いでは篠原中の生徒が前に立ち、レクの説明をしました。堂々と前に出て発表することができていました。

2日目は午前中にレクをしたあと午後から本郷台のアースプラザに向かいました。他国の民族衣装を体験したり、スイミーをみたりしました。帰りのバスはさすがに疲れたのか、目をつぶり遠い世界に誘われる生徒が多かったですが、それだけ充実した1泊2日の体験学習だったのだと思います。

今年のみまわりは、例年よりも大きく立派に咲き誇ってくれました。その鮮やかな黄色の花びらと高い茎で、篠原中学校を明るく照らしてくれました。



ひまわり通信

先日、技術員の 力をお借りして、無事にひまわりの種を収穫できました。来年度もひまわりの花々が立派に育ってくれることを心から祈っています。
(生徒会本部)



着任教職員の紹介

以前にお伝えしましたが、 が産育休に入りました。代替として、
日から 勤務します。ご承知おきください。また、
由がなくなるため、17日をもって退任となります。

18
は任用事